雲仙岳の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。
地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○　活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①、図３-①③）

今期間、白色の噴気が最高で噴気孔上100m（９月：200m）まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図２-②、図３-②④⑤、図４）

火山性地震の月回数は４回（９月：２回）と少ない状態で経過しました。橘湾付近の火山性地震は観測されていません（９月：０回）。

震源が求まった火山性地震は、普賢岳から平成新山直下の深さ１km付近に分布しました。2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ１～２km付近を震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性微動は、2006年11月以降観測されていません。

・地殻変動の状況（図５、図６）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図１　雲仙岳　平成新山の状況（10 月４日、野岳監視カメラ）
今期間、白色の噴気が最高で噴気孔上 100m（９月：200m）まで上がりました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、雲仙砂防管理センター、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

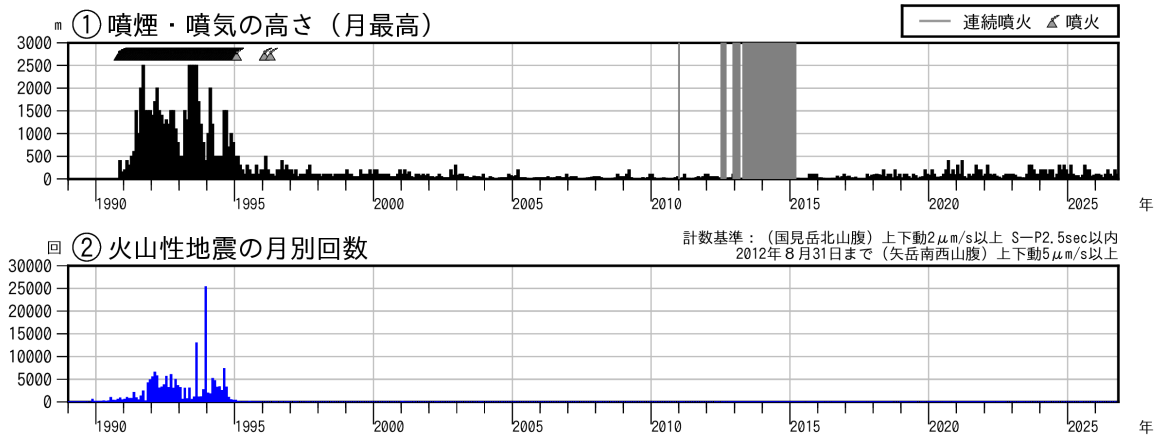


図２　雲仙岳　長期の火山活動経過図（1989 年１月～2026 年 10 月）

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。
深江林道観測点、鳥甲山北山腹観測点または普賢岳東観測点で火山性地震を計数している期間があります。

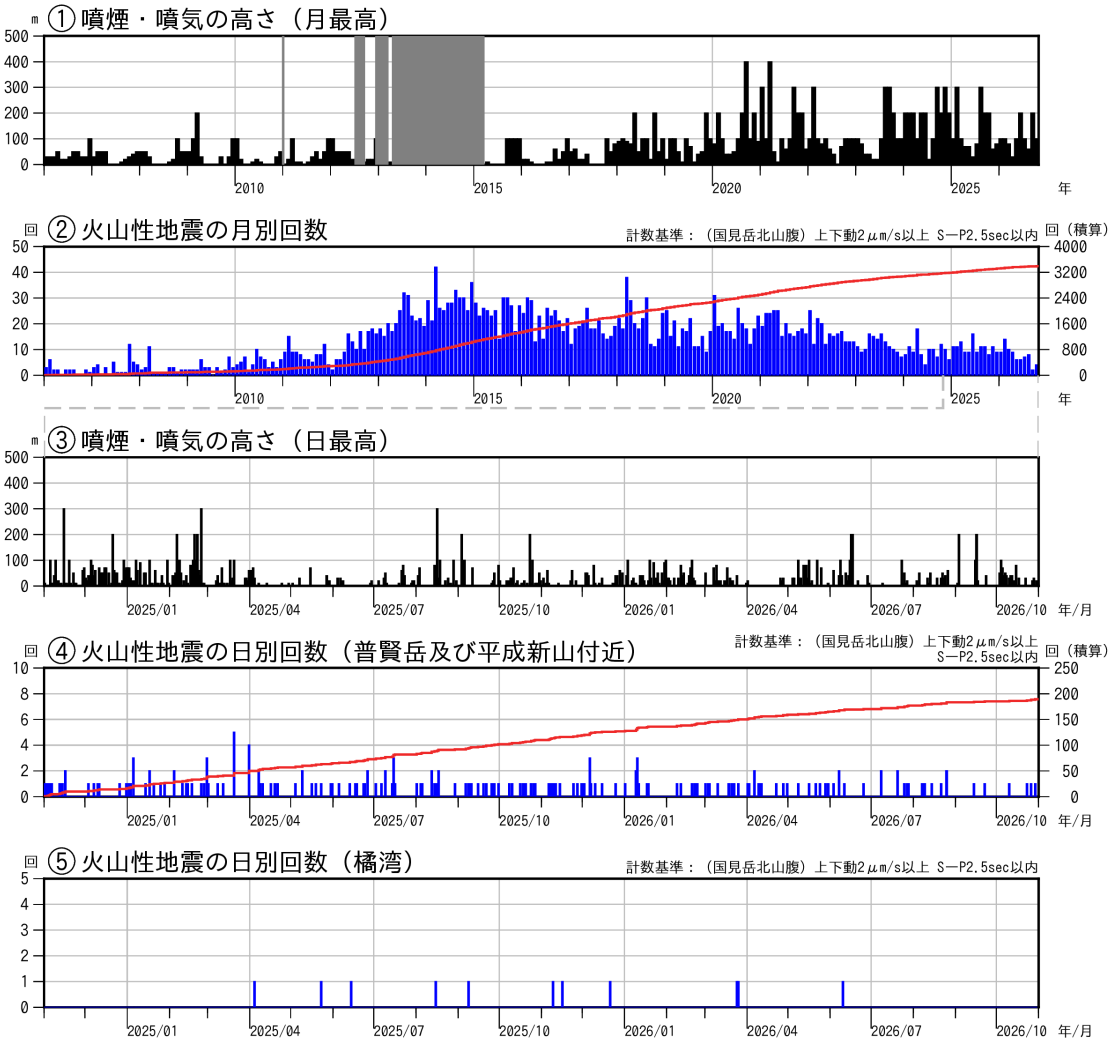


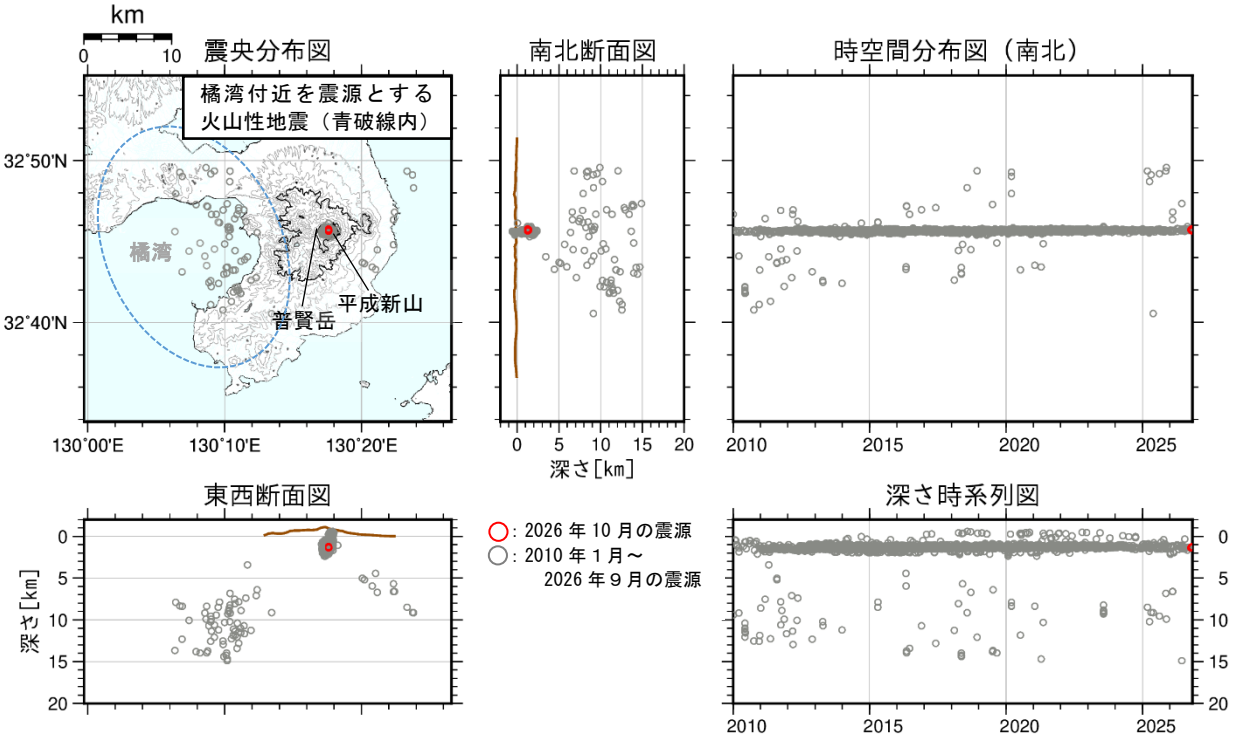
図３　雲仙岳　火山活動経過図（2006 年１月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

- 白色の噴気が最高で噴気孔上100m（９月：200m）まで上がりました。
- 火山性地震の月回数は４回（９月：２回）と少ない状態で経過しました。橘湾付近の火山性地震は観測されていません（９月：０回）。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。
赤線は火山性地震の回数の積算（右軸）を示します。
深江林道観測点、鳥甲山北山腹観測点または普賢岳東観測点で火山性地震を計数している期間があります。

①広域図



②狭域図

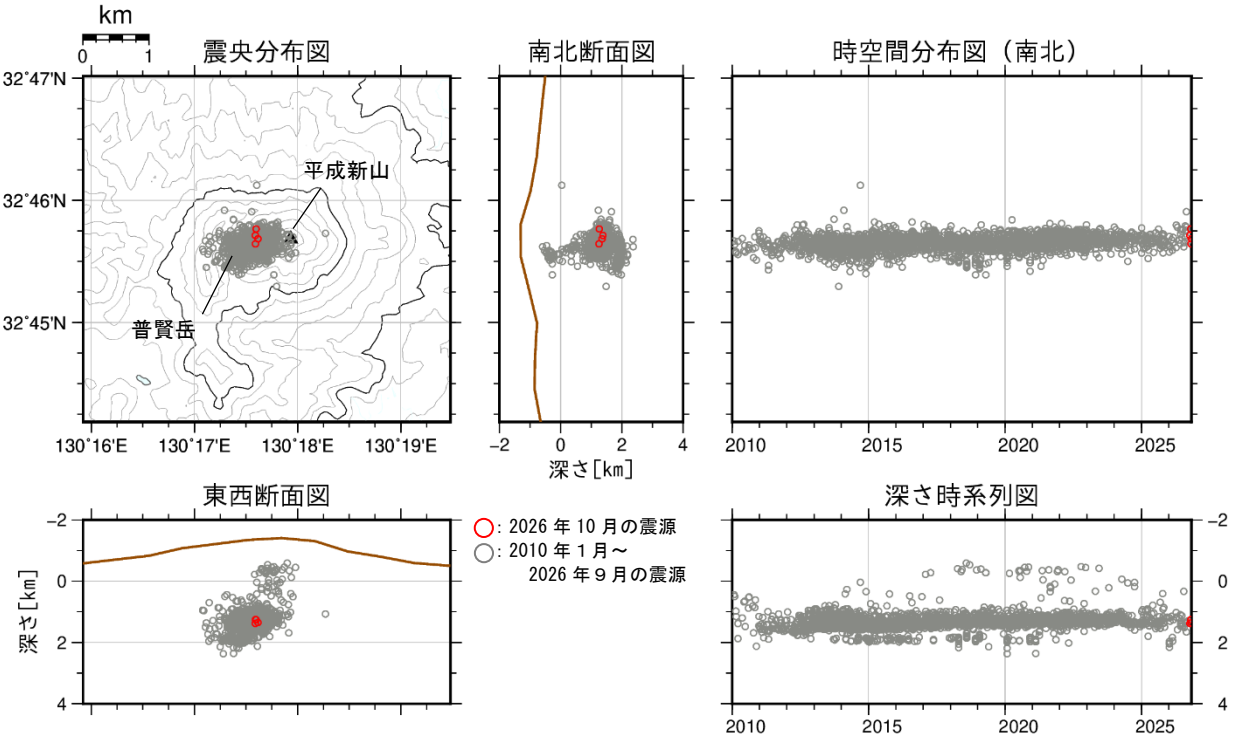


図４　雲仙岳　震源分布図　①広域図 ②狭域図（2010 年１月～2026 年 10 月）

＜10 月の状況＞

震源が求まった火山性地震は、普賢岳から平成新山直下の深さ１km付近に分布しました。

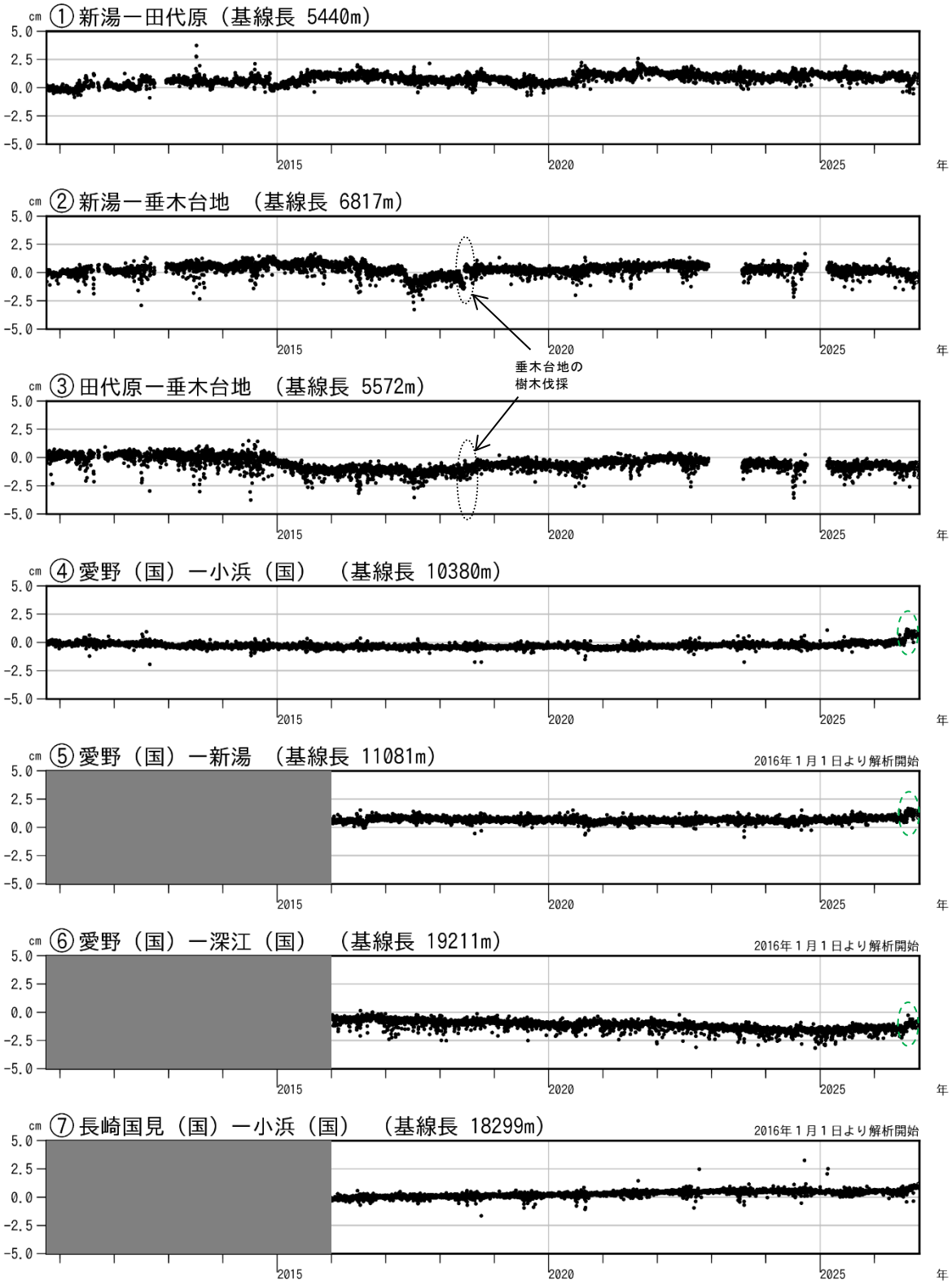


図５　雲仙岳　GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2026 年 10 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

これらの基線は図６の①～⑦に対応しています。
基線の空白部分は欠測を示しています。
2016 年１月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
基線④については、2015 年以前のデータは国土地理院の解析結果（F3 解）を使用しています。
2016 年４月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。
基線④⑤⑥の緑色破線内の変化は、令和８年熊本地震（2026 年７月 28 日）による変動です。
（国）：国土地理院

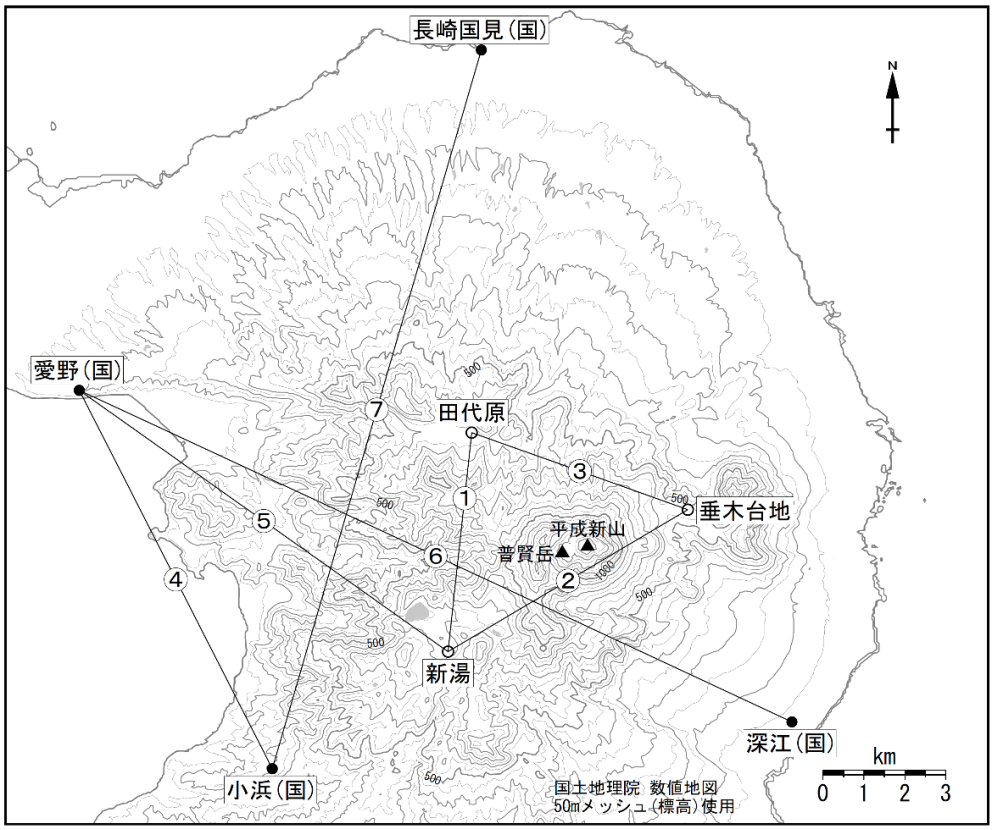


図６　雲仙岳　GNSS連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院

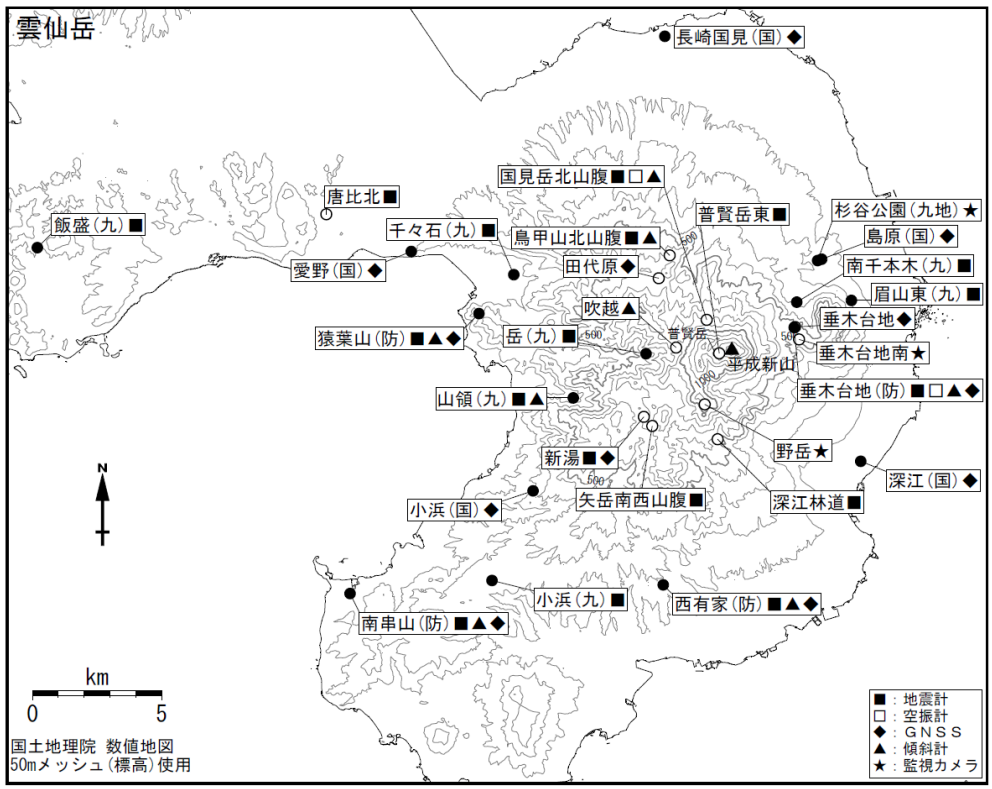


図７　雲仙岳　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（九）：九州大学、（防）：防災科学技術研究所、（九地）：九州地方整備局（雲仙砂防管理センター）